
岐阜県立中津高等学校

学校長 森井 静子
学校住所 岐阜県中津川市中津川1088-2 電話 0573-66-1361

1 会議の名称 岐阜県立中津高等学校学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委 員 小椋 武志 元全日制PTA会長
佐藤 和男 前定時制同窓会長
須栗 大 中京学院大学(教授)
西尾由美子 元小学校教頭
吉村あづさ 地域代表
(委員名は五十音順)

学校側	森井 静子	校長
	加藤 久視	副校長
	谷口 典子	事務部長
	吉田 浩之	教頭(司会)
	可知 嘉文	全日制教務主任
	山田 政春	定時制教務主任
	青山 理	全日制生徒指導主事
	西尾 靖彦	定時制生徒指導主事
	小栗 毅石	全日制進路指導主事(記録)

3 会議の目的 学校運営等について、地域の有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの要望を取り入れると共に協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和元年7月2日(火) 14:00~16:00 中津高等学校小会議室
委員5人と学校側9人が出席

5 会議の概要

- (1) 委員の委嘱と学校長挨拶(令和元年度学校経営方針と教育活動について)
- (2) 授業参観・校舎見学
- (3) 令和元年度学校経営方針と教育活動について(各分掌長より)
- (4) 授業参観のご感想及び本校の教育についての討議

意見1 中津高校は進学校だが、これからの時代を考えると、最初に受験の評価がありきではなく教育プロセスを大切にすべきではないか。大学に入学した後のその先でどうするのか。高校では、自分の将来のためにどれだけ勉強できているかが大切である。推薦入試対応も良いが、一般試験で勝負できる学習こそ地頭力を鍛え将来につながるものになるのではないか。また、苦しいと思われるこの学習も一生という時間から考えたら一瞬のことであるし、むしろそれを楽しめる方向に持って行くようにやることを教員の方をお願いしたい。これから幅広く認知されていくLGBTの課題については、長い目で対応していくのはいかがでしょうか。

回答1 LGBTの件については、現在、校則や制服そのもののあり方について議論をして、学校全体で考えているところです。これからの世の流れを鑑みて、柔軟に対応をしていきたいと考えています。

意見2 生徒に投げかけて返してもらったものをまた返す形の授業形態が多く、楽しいと感じる授業だった。ただ、机の上に、参考書やら辞書やらいっぱい置いてあり、わずかなスペースでノートに書いていた。もう少し天板の面積が広い机だといいですね。

評価のシステムは難しい話ですね。カラオケの採点に例えて申し訳ないですけど、カラオケで歌うと機械が採点してくれるのですが、実際聞いていると心地よいのに点数が低く出たり、逆に下手だなあと感じてると高得点だったりします。学校の評価もいろいろ考えて出されていると思います。受験の技術を身につけることも大切ですが、生きていく力においては、カラオケの100点より70点とっても心地よく楽しく歌えるようなことを評価する面もあるといいですね。

働き方改革についてですが、ブラックな部分も多々あるかと思いますが、思い切って週の一回ぐらいバツサリ定時で帰る日を作って対応した方が、先生もリフレッシュできて良いし、疲労困憊の先生に教えられるより生徒にも良い影響があるのではないかと思います。

回 答 2 学校は、学習指導要領に沿って育成すべき力や生徒像を想定して、それを達成する教育目標を設定している。評価はそれを達成するための大事な要素である。ただし、その評価手段は様々であり、また教育効果も様々である。また、時代の要請によって変化があって良いと昨年度から考え議論を進めている。現在の議論の中心は、定期考査を廃止して、授業でその都度観点別評価を継続することなどである。既にあるものを原点に戻って考えるという姿勢で対応していきたいと考える。

働き方改革は、生徒に対しても影響があると我々も認識しています。現在の業務量では、ばっさりカットする英断は難しいが、早く帰る日を設定して実施したり、業務の見直しを図りながら効率化を推進して対応しているところです。時間も大切ですが、教師自身の自分磨きの推奨に焦点をあて、生き生き働くために必要であると周知しているところです。

意 見 3 CCC活動において、生徒が自主的に出てきて活動しているところが凄いい学校の雰囲気の良さの一つだと思いました。評価の仕方を変えるというのは、大学においても課題として考えているところで、定期考査もやめようかと考えている。私立高校では、平常点の付け方をどうするかが課題だと教師の方が話されてましたが、定期考査をなくして、授業ごとにその都度評価測定するのも良いですね。中津高校の強みにしてはどうだろうか。

カウンセラーの配置はどうなっていますか。

回 答 3 カウンセラーの配置は、週一で4・5人の生徒・保護者を対象に行っている。生徒や保護者からの要望や状況に応じて紹介をしている。静岡県の遠方から見えているので時間の制約はあるが、丁寧に対応していただいている。

意 見 4 はじめて高校の授業を見て、とても新鮮に映りました。落ち着いて学習に取り組んでいる姿はもちろん、ICT等随分と変わった授業形式などです。また、中津地区は割と地元に戻ってくるようですが、学校で様々な事に取り組んで地域を盛り立てていることは素敵だと思います。また、特別な支援の必要な生徒に対しても、細かく配慮するための少人数教育に取り組んでいたり、授業でかなり気を遣ってやっていることにも感心しました。

さらに、びっくりしたのが、定期考査を無くすとか制服を無くすかという議論がされていることです。先生方は、常にアンテナを高く立てて、生徒にどうしたら最大の利益や効果があるかを考え行動をしているのだなと関心しました。その情報を今後とも教えていただけるとありがたいです。

回 答 4 CCC活動では、馬籠で外国人相手の英語ガイドや中学生に対する授業等、地域貢献活動を行うばかりでなく、地域への学校活動の発信の場とも考えている。社会で生きていく力の育成と保護者や生徒の思いを具現する校則や学校システムを構築するために、今後も高いアンテナを立てて対応していく予定である。これからもご意見をお願いします。

意 見 5 自分の高校の頃と比べると、朝の挨拶もしっかりしているし、お礼口さんで素直になっていると感じる。これは、この素敵な環境が用意されてるからかもしれません。その反面、ちょっとしたことでくじけしまったり、すぐへこたれるのが残念です。

親の経験として、子供が大学受験に追い詰められて逃げ場がないときに、その姿を見て随分苦しみました。四年後はどうするのかも考えずに、ある成績で推薦とか楽な方へ流すようにしたりしました。英文法やら数学の定理など勉強そのものは役に立ちませんでした。必死で勉強するという経験そのものは大切な時間になったと思います。受験の先の2・4年後にどんな風に世の中を歩いて行きたいか、中津川に戻ってきて、どんな風にしたいのかを考えさせたいです。

親子でもっと考える・話し合える場があれば、受験は楽しめる。子供は逃げ場があるが、母親は自分を責めてしまう。そういう親の情報交換の場があると良かったと思います。

- 回 答 5 母親の逃げ場作りという点では、まだまだ考察が足りなかったと反省している。現在、年10回の保護者のための勉強会を開いているが、講義形式で情報伝達の意味合いが強い企画となっているので、今回のお話を伺って、母親の逃げ場作りや受験時等の心のケアの一助とする形態も入れたいと考える。企画例としては、半分の時間を情報伝達として、後の半分を母親同士が話し合えるグループ活動やペアワーク活動に変更しそれを全体で共有する形に変更することである。今後導入を検討していきたい。
- 意 見 6 定時制に餅つき用の臼を四つ寄付した。食べ物を使った教育は効果があります。大変だが、餅つき大会やうどん打ちなど続けて行ってほしい。また、文化祭においても少ない人数で作り上げることは大変だが、その経験は今後の人生でも役立つ教育的効果があると考えます。継続をお願いします。
- 回 答 6 食育は重要と考えているので、今後も継続していきたい。特に仕事が終わってから学習するという点で、座っての教育や体を動かす教育などメリハリをつけることが重要と考えている。活動方針がご理解いただけて大変うれしく思います。
- 意 見 7 社会的自己実現をさせることに力を受け入れていることに感銘した。継続をお願いします。
- 回 答 7 ご理解に感謝いたします。今後も継続していきたいと思えます。
- 意 見 8 定時制も意外と働いていない人が多いことに驚いている。時代も変化したのですね。特別な支援、対応などありがとうございます。
- 回 答 8 支援の仕方も多種多様になってきた。定時制のあり方も含めて時代の変化に対応していきたい。今後ご指導をお願いします。

6 会議のまとめ

中津高校は、地域に貢献し地域の中心となって将来の地域を支える人材を育てることを、教育の一つの柱と考え懇切丁寧に行っていることを理解していただきました。今年度はふるさと教育の推進という企画も含めて新しい教育がスタートしましたが、今後ともご支援のほうをよろしくお願いします。